

次期総合計画の策定に向けた取組について

1. 政策等の背景・目的及び効果

令和10年度を始期とする次期枚方市総合計画については、令和8年5月の総務委員協議会において、策定に向けた取組の方向性等について報告を行いました。現在、この方向性に基づき検討を進めているところであり、今般、こうした取組の進捗状況について報告を行うものです。

また、次期総合計画（以下、「次期計画」という。）における基本構想については、令和8年11月の試案策定をめざして、これまで取組を進めた各種アンケートやワークショップの結果等を踏まえながら、庁内策定体制において検討を進めているところです。この基本構想の現時点の検討内容についても、あわせて報告を行います。

2. 内容

(1) 次期計画策定に向けた取組の進捗状況について

次期計画の策定にあたって、将来人口推計、各行政分野における未来予測などの基礎的データの分析を行うとともに、市民、市内事業者などへのアンケートや市民等に参画いただくワークショップなどにおいて、多様な主体のまちづくりに対するご意見等の把握を進めてきました。その進捗状況は以下のとおりです。

①基礎的データの分析状況

(ア) 第5次枚方市総合計画の総括

第5次枚方市総合計画（以下、「現行計画」という。）の総括評価にあたっては、28の施策目標と4つの計画推進ごとに、まずは市自らが、市民意識調査の結果（主観的指標）と具体的な取り組み及び施策指標（客観的指標）の達成状況（見込み）により内部評価を実施し、この内部評価に対して、市民や学識経験者、関係団体の代表者などで構成される施策評価員による外部評価を実施しました。

外部評価を踏まえた市の最終評価としては、全32施策目標のうち、「達成」が9施策、「概ね達成」が13施策、「課題あり」が10施策となりました。

(詳細については、第5次枚方市総合計画総括評価報告書を参照。)

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000054211.html>



(イ) 将来人口推計

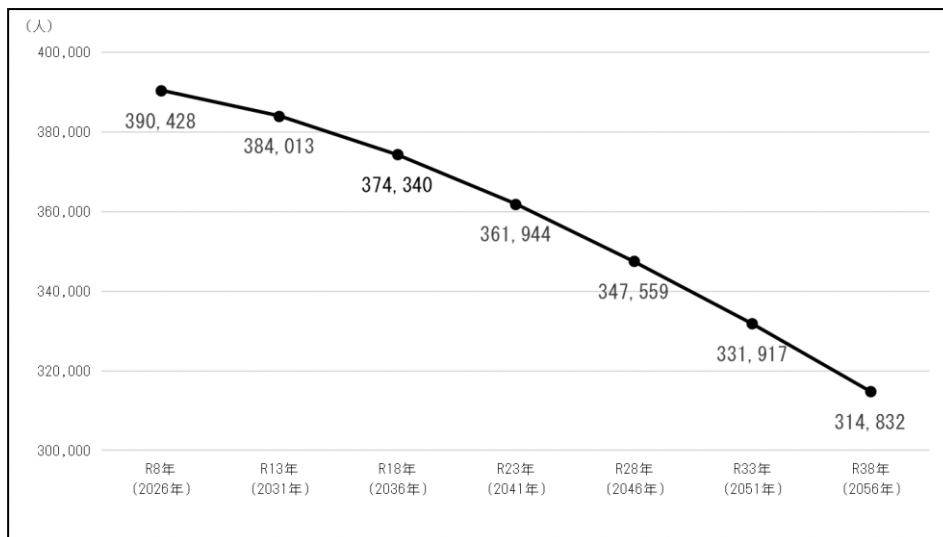
将来人口推計にあたっては、基準日（令和8年5月1日）の年齢別人口に対し、将来の「出生」「死亡」「人口移動」の3要因を1年ごとに繰り返し計算するコーホート要因法により推計を行いました。推計結果としては、令和8年から10年間で約16,000人（▲4.1%）、30年間で約75,600人（▲19.4%）の減少となりました。

令和5年度に実施した前回推計では、令和35年時点の人口を306,409人と推計しており、同年における今回推計人口325,295人と比較して、減少幅が約2万人緩和しています。これは、20歳～44歳の子育て世代と60歳以上の高齢世代の社会移動率が、施策効果や住宅開発等により改善したこととあわせて、全国的な傾向としての特定技能制度などによる労働者層の流入や、大学等の留学生の居住による外国人人口の増加が主な要因と分析しています。

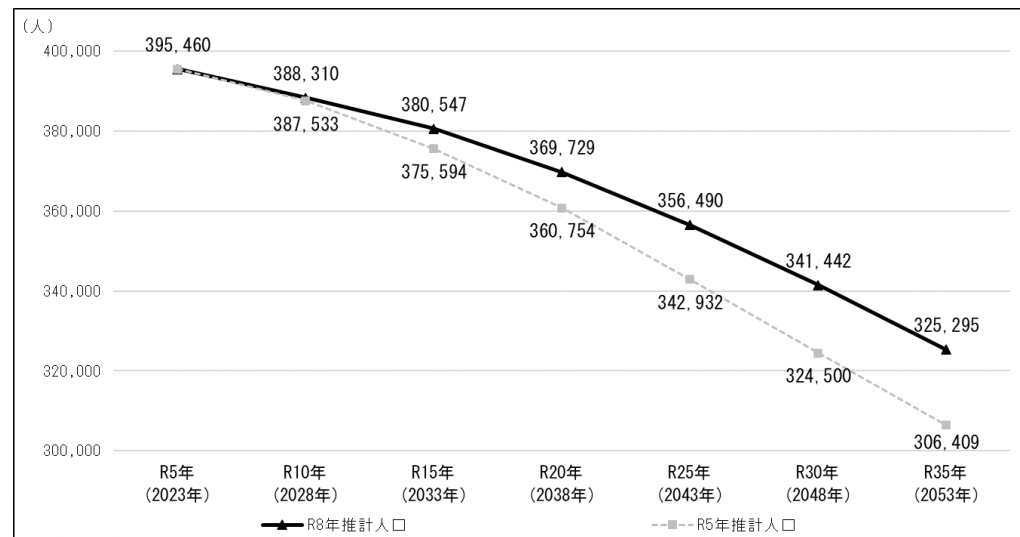


(詳細については、将来人口推計調査報告書を参照。) <https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000054190.html>

●令和8年度人口推計結果



●前回推計（令和5年度）との比較



(ウ) 未来予測

本市の長期的なまちのビジョンの作成に向けて、人口の推移や年齢構成等の将来的な変化を踏まえ、複数の分野における行政需要等の見通しや今後顕在化する課題の分析を行うことで、未来予測を行いました。

未来予測にあたっては、国が示す地域の未来予測や他市の状況などを参考に推計項目を設定し

たほか、本市の未来のまちの姿をより明確化していくために、本市の各行政計画等に基づいて、計画等に位置付けた課題の洗い出しと、その課題を構成する要素の分析を行うことで、本市独自項目の推計についても行いました。（詳細については、枚方市の未来予測を参照。）

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000054207.html>



②多様な主体のまちづくりに対するご意見等の把握

（ア）ワークショップ

市民や事業者等に参画いただき、ともに未来の枚方を考えるワークショップを開催しました。ワークショップの中で議論し作り上げた未来の枚方については、生成AIを活用し「未来キャンバス」として、1枚のイラストとして視覚化を行いました。「未来キャンバス」は、市役所庁舎内等で展示を行う予定です。



▲ワークショップで完成させた「未来キャンバス」

【ワークショップ概要】

回数	日時	参加人数	内容
第1回	令和8年6月6日(土) 10時～12時	29人	市を取り巻く現況等をもとに、グループに分かれて現在の枚方市の特徴や課題を考える。
第2回	令和8年6月27日(土) 10時～12時	26人	100年後の未来の枚方市にあってほしいモノ・コトについて考える。
第3回	令和8年7月11日(土) 10時～12時	26人	これまで考えた未来のひらかたの要素を整理し、未来キャンバスに描く内容を検討する。
第4回	令和8年7月25日(土) 10時～12時	24人	生成A Iを活用し、グループごとにイラストを作成する。
第5回	令和8年8月22日(土) 10時～12時	24人	各グループのイラストを1つにして、未来キャンバスを完成させ、取組を振り返る。

(イ) 各種アンケート

生活満足度や市の施策に対する考え、今後のまちのあり方やまちづくりに対するご意見などについて、多様な主体や年代からのご意見を広くお聞きするためにアンケートを実施しました。

(詳細については、アンケート報告書参照。)

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000054202.html>



アンケート種別	回答者数（回答率）	年代別回答者数
市民アンケート （22歳以上の市民3,000人）	1,093人 （36.4%）	若者世代（22歳～24歳） 13人（1.2%） 子育て世代（25歳～44歳） 208人（19.0%） 熟年世代（45歳～64歳） 387人（35.4%） 高齢者世代（65歳以上） 469人（42.9%） 無回答 16人（1.5%）
子どもアンケート （小学校高学年、中学生1,500人）	481人 （32.1%）	小学生 218人（45.3%） 中学生 263人（54.7%）
若者アンケート （高校生、大学生等1,500人）	232人 （15.5%）	高校生年齢 140人（60.3%） 大学生年齢 92人（39.7%）
事業者アンケート （市内事業者1,000社）	109社 （10.9%）	—
NPO法人アンケート （市内全NPO法人94法人）	22法人 （23.4%）	—
インターネットアンケート （市民・市外在住者）	1,087人 市内：874人 市外：213人	若者世代（24歳以下） 71人（6.5%） 子育て世代（25歳～44歳） 312人（28.7%） 熟年世代（45歳～64歳） 408人（37.5%） 高齢者世代（65歳以上） 278人（25.6%） 無回答 18人（1.7%）

（２）次期計画における基本構想（試案）について

次期計画の策定に向けて取り組んできたこれまでの取組を踏まえて、基本構想（試案）について検討を行っています。現時点の検討内容については、以下のとおりです。

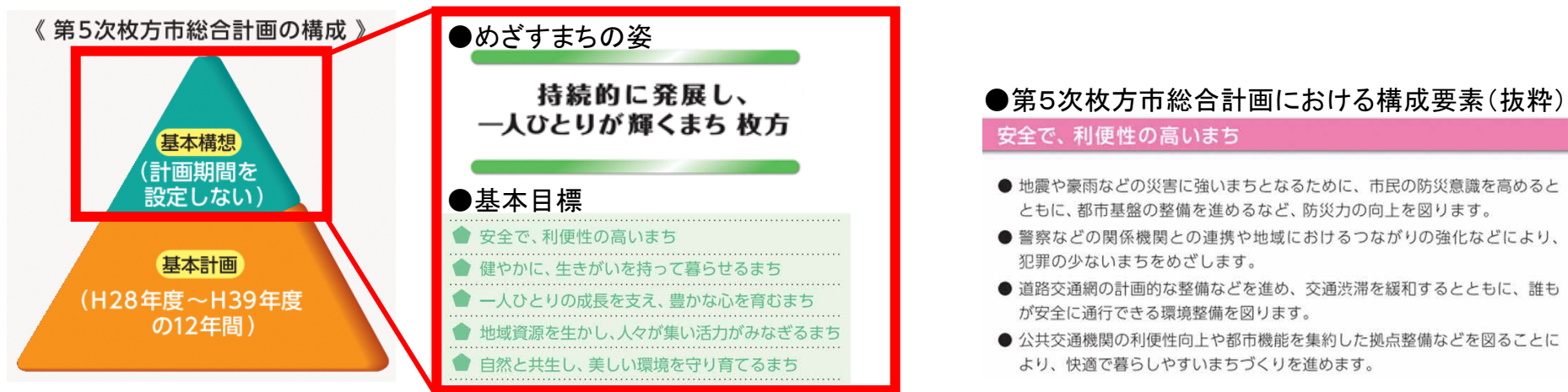
なお、基本構想は長期的な視点に立った本市のめざすまちの姿・目標であることから、次期計画における基本構想については、現行計画の基本構想を基本として検討を行っています。

①次期計画の全体構成と計画期間

次期計画における全体構成については、基本構想と基本計画で構成するものとし、それぞれの計画期間については、基本構想は計画期間を定めず、基本計画については、令和10年度を始期とする12年間を計画期間とします。

②基本構想の構成

次期計画における基本構想は、まちづくりの理念である「めざすまちの姿」とその実現に向けた方向性である「基本目標」、基本目標を具体化する「構成要素」で構成します。



▲基本構想のイメージ（現行計画における基本構想）

③次期計画における基本構想の検討

次期計画の基本構想の検討にあたっては、まずは、これまで取組を進めてきた、基礎的データの分析と多様な主体のまちづくりに対するご意見等を踏まえ、若手職員によるプロジェクトチームを含む庁内策定体制において、現在の社会情勢や本市の現況、未来予測、市民や市内事業者の意見等を総合的に捉えながら、今後のまちづくりの方向性となる基本目標の「構成要素」の検討を進めました。

そうした検討の結果、次期計画における基本目標の「構成要素」については、人口減少・少子高齢化の進展、新型コロナウイルス感染症の影響による社会的な変革、デジタル技術の革新、国の制度改正、LGBTQ+や多文化共生といった時代に即した概念など、本市を取り巻く情勢が現行計画策定時より大きく変化していることや、未来予測などに基づく本市の将来的な課題や需要をしっかりと反映していく必要があることなどから、内容や表現を一新しています。

一方で、「めざすまちの姿」と「基本目標」については、今回の「構成要素」の変更を行ってもなお、現行計画の「めざすまちの姿」と「基本目標」が、新しい「構成要素」の内容を包含できることから、現時点においては、現行計画を踏襲する方向で検討を進めています。

今後、さらなるデータ分析等を進めるとともに、市議会等からのご意見も踏まえながら、引き続き令和8年11月の基本構想（試案）の策定に向けて、検討を進めていきます。

（構成要素の詳細については、P. 13以降の（別紙）次期計画における基本目標の構成要素（案）参照。）

3. 策定スケジュール（予定）

令和8年（2026年）8月	・総務委員協議会において取組内容の進捗状況と時点における基本構想（試案）等を報告
9月～	・引き続き総合計画基本構想（試案）の検討
10月	・総合計画基本構想（試案）についてパブリックコメントの実施
11月	・総合計画基本構想（試案）を市議会へ報告
令和9年度（2027年度）	・総合計画素案の作成 ・パブリックコメント等の実施 ・総合計画の策定について議案提出 ・総合計画の確定、公表

※市議会へは適宜報告を行います。

4. 総合計画等における根拠・位置付け

枚方市総合計画



5. 関係法令・条例等

枚方市総合計画策定条例、枚方市議会基本条例

6. 事業費・財源及びコスト

《令和8年度事業費》 22,402千円

支出内訳	委員報酬	1,045千円
------	------	---------

	策定支援業務委託料	19,000千円
--	-----------	----------

	事務経費	2,357千円
--	------	---------

《令和9年度以降見込み》

	策定支援業務委託料	10,400千円
--	-----------	----------

※令和8年5月総務委員協議会資料から変更はありません。

(別紙) 次期計画における基本目標の構成要素 (案)

● 防災・インフラ

構成要素 (案) の考え方	次期計画構成要素 (案)	現行計画構成要素
激甚化する自然災害や避難行動要支援者への対応といった課題に対し、市民アンケート等で自助・共助の強化や的確な情報発信を求める声が多いことから、市民の防災意識向上、都市基盤の整備、地域・事業者との連携を一体的に進める必要があります。これらを通じて、災害に強く安全に暮らせるまちをめざす考えです。	● 市民の防災意識をさらに高めるとともに、都市基盤の整備や的確な情報発信を進め、地域や事業者などとの連携により、災害に強く安全に暮らせるまちをめざします。	● 地震や豪雨などの災害に強いまちとなるために、市民の防災意識を高めるとともに、都市基盤の整備を進めるなど、防災力の向上を図ります。
新たな手口の犯罪や組織犯罪が増加し、高齢者が狙われやすい状況にある一方、子どもも犯罪に加担する側のターゲットになりやすく、市民や事業者からは見守り体制の強化や関係機関との連携を求める声が上がっています。これらを踏まえ、巧妙化する犯罪に対して新技術の活用や、社会全体での連携によって犯罪のない安心なまちをめざす考えです。	● 組織化、巧妙化する犯罪にも対応できるよう、事業者や関係機関、地域が連携し、社会全体で犯罪のない安心なまちをめざします。	● 警察などの関係機関との連携や地域におけるつながりの強化などにより、犯罪の少ないまちをめざします。
人口減少に伴う公共交通の維持が課題となる一方、市民からは渋滞緩和や歩行空間の安全性向上、次世代交通技術への期待が寄せられています。これらの意見をもとに、渋滞解消や安全性向上のため、道路交通網や歩行空間の計画的な整備を進めるとともに、公共交通機関や徒歩・自転車の利用による環境配慮、健康増進につなげ、新しい手段や技術の活用の検討などを行いながら、これからの時代に即した交通環境を整えていくことで、誰もが安全で快適に移動できるまちをめざす考えです。	● 道路交通網や歩行空間の計画的な整備を進めるとともに、時代に即した新しい交通環境を整えることで、誰もが安全で快適に移動できるまちをめざします。	● 道路交通網の計画的な整備などを進め、交通渋滞を緩和するとともに、誰もが安全に通行できる環境整備を図ります。
本市の強みである交通アクセスや生活利便性を評価する声が多いことから、本市の公共交通ネットワークを生かした拠点への都市機能の集約化を進めていく考えです。さらに、拠点の発展だけでなく周辺の住環境とも調和を図ることで、枚方市の強みであるバランスの取れたままの環境を将来にわたって維持向上させ、誰もが暮らしやすいまちをめざしていく考えです。	● 公共交通ネットワークを生かした都市機能の集約化を図りながら、周辺環境とも調和した、将来にわたって賑わいと安らぎが共存する誰もが便利で暮らしやすいまちをめざします。	● 公共交通機関の利便性向上や都市機能を集約した拠点整備などを図ることにより、快適で暮らしやすいまちづくりを進めます。

●医療・福祉・共生

構成要素（案）の考え方	次期計画構成要素（案）	現行計画構成要素
身体・健康だけでなく心の健康も重要視される中、市民からは健康増進に向けた環境づくりや検診の充実や心のケアなどを望む声があります。これらのニーズに応え、疾病の予防・早期発見や健康増進の環境を整えることで、「ウェルビーイング」を向上させ、心身ともに健やかに生きがいを持って暮らせるまちをめざす考えです。	● 健康増進のための環境づくりや、疾病の予防・早期発見の取り組みなど、市民のウェルビーイングの向上を図り、誰もが心身ともに健やかに、生きがいを持って暮らせるまちをめざします。	● 誰もが日頃から健康増進を図ることができる環境づくりや、疾病の予防・早期発見につながる取り組みを進めるなど、市民の健康づくりを推進します。
高齢化により医療ニーズが多様化・増加する中、市民アンケートでは救急医療体制の充実や受診環境の改善が求められており、PTでは地域間格差の解消が課題として挙げられています。これらを踏まえ、本市の充実した地域の医療資源を効果的に活用し、必要な時に適切に医療を受けられる体制を充実させることで、誰もが安心できるまちをめざす考えです。	● 地域の医療資源の効果的な活用と、健康危機事象へ迅速に対応できる体制の充実により誰もが適切な医療を受けられるまちをめざします。	● 地域の各医療機関の連携強化を進めながら、住み慣れた地域に必要な医療が受けられる地域医療の充実を図ります。
介護・障害福祉ニーズの増大と担い手不足が進む中、外出支援やバリアフリー化の充実、さらには先端技術を活用したサポート体制への期待が高まっています。これらの課題と期待に対応するため、まちづくりにユニバーサルデザインの視点取り入れ、スマートテクノロジーを融合させた高齢者や障害者を含めた誰もが安心して自分らしく暮らせるまちをめざす考えです。	● ユニバーサルデザインの視点と生活を支えるスマートテクノロジーを取り入れたまちづくりにより、高齢者や障害者などが安心して自分らしく暮らせるまちをめざします。	● 高齢者や障害者などが生きがいを感じながら、地域で自立した生活ができる環境づくりを進めます。
多様な背景を持つ人々との共生が重要視される中、世代別の人権啓発や、誰もが尊重され安心して暮らせるまちを求める声が市民から多く寄せられています。また、平和に関しては、平和教育の充実や平和に暮らせるまちへの意見があり、これらの意見を反映し、人権尊重をすべての根幹に据えた、多様性を認め合えるインクルーシブなまちづくりと、平和な社会の実現に向けて取り組む考えです。	● 人権尊重を根幹に据えた、多様な背景を持つ人々が共生できるインクルーシブなまちづくりを進めるとともに、平和な社会の実現に取り組めます。	● 性別や国籍などの違いを越え、すべての人の人権が大切にされるよう、人権意識の高揚を図るとともに、平和社会の実現に取り組めます。

●教育・子育て・生涯学習

構成要素（案）の考え方	次期計画構成要素（案）	現行計画構成要素
こども基本法や子どもを守る条例の理念に基づき、子どもを権利の主体として尊重し、その最善を優先するとともに、子どもや家庭を取り巻く課題が複雑化する中、市民や事業者からは妊娠期から若者までの切れ目ない支援や、社会全体で子育てを支える環境が期待されています。これらを受け、切れ目ない支援の提供と課題に適切に対応できる環境整備を進め、子どもの人権、最善の利益が尊重され、社会全体で子育てを支えるまちをめざす考えです。	● 妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援と、子どもを取り巻く課題へ適切に対応できる環境整備により、子どもの人権、最善の利益が尊重され、社会全体で子育てを支えるまちをめざします。	● 次代を担う子どもを安心して産み育てられるまちをめざし、子どもたちの健やかな成長を社会全体で見守っていく環境づくりを進めます。
デジタル技術を活用した質の高い教育や、一人ひとりの可能性を伸ばす個別最適な学びが求められており、子どもたちからも夢や希望に向かって挑戦したいという声があります。これらの期待に応え、多様な主体と連携しながら、子どもたちの豊かな人間性と確かな学力を育み、未来への可能性を最大限に伸ばす教育環境を充実させる考えです。	● 子どもたちの豊かな人間性と確かな学力を育み、未来への可能性を最大限に伸ばすことのできる教育環境の充実に取り組みます。	● 子どもたちの豊かな人間性を伸ばすとともに、確かな学力の定着に取り組むなど、生きる力を育む教育の推進とその環境の充実に図ります。
本市は図書館等の利用が活発であり、多世代の交流やリスキリングなど、生涯を通じた学びの機会を求める声が各方面から上がっています。こうした背景から、本市特有の強みである大学等の地域資源も生かしながら、誰もが自分のライフステージに合わせて「学び」を実現し続けられるまちをめざす考えです。	● 図書館や生涯学習市民センター、大学といった充実した学びの環境を生かし、誰もが生涯にわたって自分らしい「学び」を実現できるまちをめざします。	● あらゆる世代の人が、文化芸術やスポーツなどに親しみ、生きがいを持って学び続けることのできる環境づくりを進めます。
市民や子どもたちから、文化芸術やスポーツに身近に触れ、思いきり体を動かせる場やイベントの充実を求める声が多く寄せられています。これらを踏まえ、ハード・ソフト両面から誰もが文化芸術・スポーツに親しめる環境を整え、「する、みる、ささえる」喜びを共有し、文化芸術やスポーツが地域に根差した感動と交流が溢れるまちをめざす考えです。	● 誰もが身近に文化芸術やスポーツに親しめる環境づくりを通して、感動と人々の交流が溢れるまちをめざします。	

●観光・産業

構成要素（案）の考え方	次期計画構成要素（案）	現行計画構成要素
市民アンケートでは地域資源をつなげた活気あるまちを望む声が多いです。また、事業者アンケートでは、中心市街地だけでなく各地域の活性化を求める声が多くあります。こうしたことから、中心市街地で生み出した活力を各地域へと波及させることで、まち全体の魅力向上をめざす考えです。	● 中心市街地の活性化を一層進め、創出された活力を市内各地域へ波及させることにより、まち全体の魅力向上をめざします。	● 中心市街地の活性化により、人々が集い交流し、さまざまな活動が活発に展開される拠点づくりを進めます。
観光資源の活用や歴史・文化の発信を求める声がありました。また、テーマパークをはじめとする本市の資源は市民が幼少期から訪れるもので、本市への愛着の根源になっていることが子ども・若者アンケートからも明らかになり、この点は今後も守り継いでいくべきものと考えます。本市ならではの地域資源を生かして市内外の交流を生み出しつつ、住む人が愛着を持ち、日常の活気や豊かさにつながる身近な観光を推進していく考えです。	● 本市ならではの地域資源の活用により、市民が愛着を持ち、活気と市内外の交流が溢れるまちをめざします。	● 本市の貴重な歴史や文化などの地域資源を生かしながら、市民が愛着を持ち、また、多くの人が訪れたいと思えるまちづくりを進めます。
本市には多くの大学があり、市民や事業者からは、大学の知的資源や学生の活力をまちづくりや教育・産業に活かしてほしいとの期待が寄せられています。この「学園都市」としての強みを最大限に発揮し、若者のエネルギーを取り入れながら地域や企業と連携したまちづくりを進める考えです。	● 学園都市の強みを生かし、市内大学の知的資源と若者のエネルギーを取り入れたまちづくりを進めます。	● 市内大学の知的資源や多くの学生の活力を、まちづくりに生かす取り組みを進めます。
地域産業における人材確保等の課題への対応や、インフラの維持や立地を活かした事業者支援、起業しやすい環境づくりを求める声があります。これを受け、既存の地域産業の基盤強化と起業・創業支援を両輪で進め、地域産業全体が成長し地域経済の好循環を生み出すまちをめざす考えです。	● 地域産業の基盤強化と、起業・創業支援の充実により、既存産業と新たな産業が共に成長を遂げ、地域経済の好循環へと繋がるまちをめざします。	● 関係機関と連携を図りながら、市民がいきいきと働ける環境づくりを進めます。また、市内産業の振興を図り、まちの活力を創出するとともに、市の貴重な資源である農業の保全・活用を図ります。
働き方の多様化が進む中、特に若い世代が市内で働き続けられる雇用の創出や、時間や場所に縛られない就労環境を求める声が多くあります。これらを踏まえ、地域産業を活性化することで、若者から高齢者までが自身のライフスタイルに合わせて、いきいきと働き続けられる環境を充実させる考えです。	● 地域産業を活性化させ、若者から高齢者まで、ライフスタイルに合わせて、誰もがいきいきと働き続けられる環境の充実をめざします。	

● 自然・環境

構成要素（案）の考え方	次期計画構成要素（案）	現行計画構成要素
農業者の高齢化や農地減少が懸念される中、市民からは地元農産物の活用や農地保全を求める声があり、PTではスマート農業による持続可能性の向上が提案されています。これらを総合し、里山や農業資源を活用して経済的循環を生み出しながら、本市の豊かな自然環境を守り次世代へ継承する考えです。	● 東部地域の里山や農業といった地域資源を活用し、経済的な好循環を生み出すことで、本市の豊かな自然環境を次世代へと継承していきます。	● 関係機関と連携を図りながら、市民がいきいきと働ける環境づくりを進めます。また、市内産業の振興を図り、まちの活力を創出するとともに、市の貴重な資源である農業の保全・活用を図ります。 ● 市民が将来にわたり良好な環境を享受できるよう、東部地域などの豊かなみどりのほか、公園や河川といった身近な自然を守り育てることで、自然環境を大切にするまちをめざします。
ごみ減量や資源循環の必要性に対する市民意識が高い一方、猛暑対策などの気候変動適応策や、市民負担に過度に頼らない仕組みづくりが求められています。これらの課題に対し、資源循環や脱炭素の取り組みを推進し、地球環境と調和しながら持続可能なまちをめざす考えです。	● ごみ減量や省エネルギー、再生可能エネルギーの促進などの取り組みを通じて、資源循環や脱炭素を推進し、地球環境と調和する持続可能なまちをめざします。	● ごみ減量や資源循環、省エネルギーを推進するとともに、再生可能エネルギーの利用を促進するなど、地球環境に配慮した取り組みを進めます。
環境美化活動の担い手不足が課題となる中、市民からは枚方八景などの景観保全や積極的な緑化を求める声が多く寄せられています。これを受け、市民と協働した美化・緑化活動を進め、本市の魅力である美しいまち並みと、みどり豊かな自然環境を保全・形成していく考えです。	● 地域での美化活動や、景観保全に取り組むとともに、街中の緑化活動を進め、美しいまち並みの形成とみどり豊かなまちの実現をめざします。	● 地域での美化活動など、きれいなまちをつくる意識を高めるとともに、地域資源を生かしながら、景観に配慮した美しいまち並みの形成に取り組みます。